

## 尿路感染対策

土手健太郎

- 1 膀胱留置カテーテルの取り扱いの原則
  - 1.1 個人・教育
    - 1.1.1 膀胱留置カテーテルの無菌的な挿入と維持に関する知識と技術を持った医療従事者が膀胱留置カテーテルを取り扱う。<sup>164, 165</sup>(ⅢA)
    - 1.1.2 膀胱留置カテーテルを取り扱う医療従事者は膀胱留置カテーテルに留置に伴う合併症に関する教育を定期的に行う。<sup>166, 167</sup>(ⅢA)
  - 2 膀胱留置カテーテルの取り扱い
    - 2.1 使用原則
      - 2.1.1 膀胱留置カテーテルは必要時にのみ留置し、医療従事者の便宜のために使用しない。<sup>166, 167</sup>(ⅢA)
    - 2.2 カテーテル挿入
      - 2.2.1 膀胱留置カテーテルを操作する直前及び直後には手指消毒をする。<sup>168</sup>(ⅢA)
      - 2.2.2 膀胱留置カテーテルは清潔器具を用いて無菌的操作で挿入する。<sup>169</sup>(ⅢA)
      - 2.2.3 膀胱留置カテーテル挿入前に陰部洗浄を行う。(ⅢA)
      - 2.2.4 膀胱留置カテーテル挿入には滅菌済みの単回使いきりの粘滑剤を使用する方が良い。<sup>166, 167</sup>(ⅢB)
      - 2.2.5 膀胱留置カテーテル挿入後はカテーテルの移動と尿道の牽引を避けるため、下腹部に固定する方が良い。<sup>170</sup>(ⅢB)
    - 2.3 カテーテルの選択
      - 2.3.1 尿道損傷を最小限にするため、漏れない範囲で、できる限り細い外径の膀胱留置カテーテルを用いる方が良い。<sup>171</sup>(ⅢB)
      - 2.3.2 銀合金で被覆した膀胱留置カテーテルを使用する。<sup>172, 173, 174</sup>(ⅠA)
      - 2.3.3 閉鎖式採尿システム(膀胱留置カテーテルと採尿バックが一体化したもの)を使用する。<sup>166, 167</sup>(ⅢA)
    - 2.4 カテーテルの交換
      - 2.4.1 定期的な膀胱留置カテーテルの交換はしない方が良い。<sup>175</sup>(ⅢB)
- 3 採尿システムの取り扱い
  - 3.1 閉鎖式採尿システムの接続部は外さない。<sup>165</sup>(ⅢA)
  - 3.2 カテーテルと採尿システムは屈曲しないようにする。<sup>166, 167</sup>(ⅢA)
  - 3.3 採尿バッグは定期的に空にする(一杯になってから捨てるようなことは避ける)。<sup>176</sup>(ⅢA)